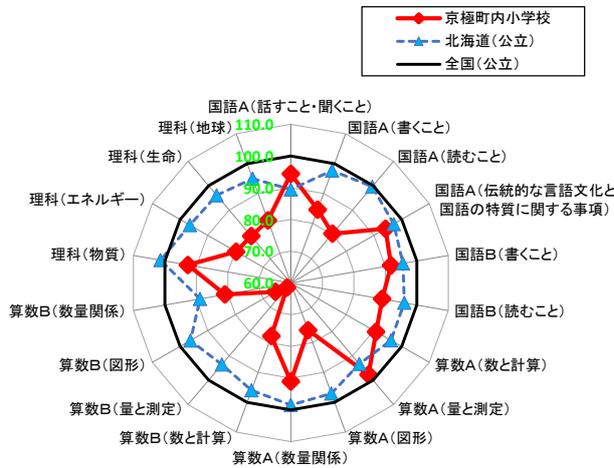


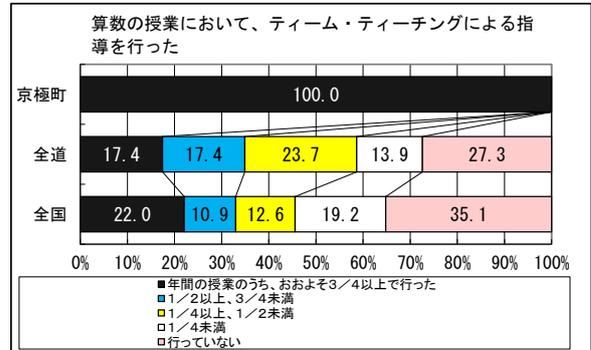
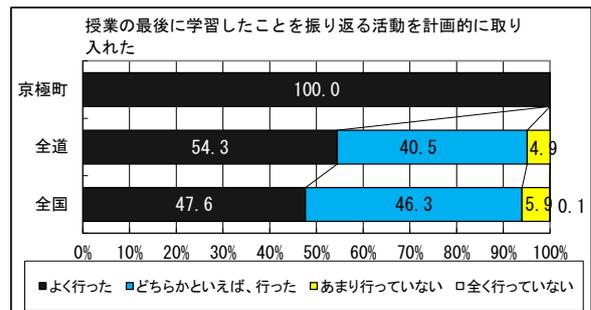
京極町内小学校の状況及び学力向上策(学校数:1、児童数:22名)

【教科全体の状況】

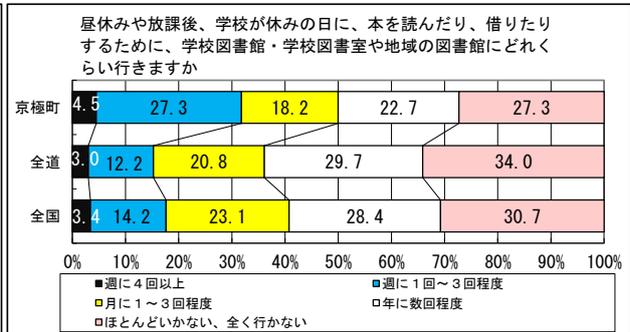
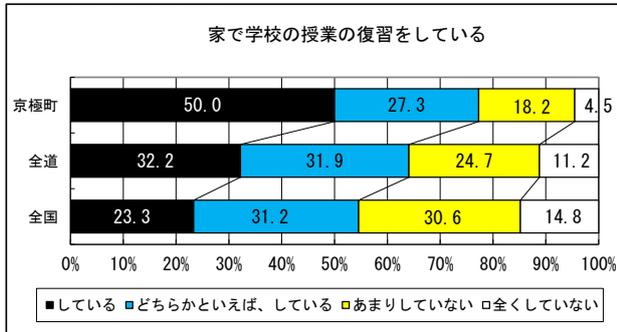
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【学校質問紙調査】



【児童質問紙調査】



【分析】

教科	○ 国語Aでは「話すこと・聞くこと」、算数Aでは「量と測定」で全道を上回っている。	○ 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたことにより、児童が家庭学習の見通しをもつようになり、家で学校の授業の復習をする児童の割合が高くなったと考えられる。
児童質問紙	○ 「家で学校の授業の復習をしている」と回答した児童の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館に週1回以上行く児童の割合が、全国及び全道を上回っている。	○ 算数の授業におけるチーム・ティーチングによる指導等、個に応じた指導の充実に向けたことにより、児童に基礎的・基本的な知識・技能が身に付き、国語A及び算数Aの一部の領域で、全道を上回ったと考えられる。
学校質問紙	○ 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 算数の授業において、チーム・ティーチングによる指導を年間の授業のうちおおよそ3/4以上で行った学校の割合が、全国及び全道を上回っている。	

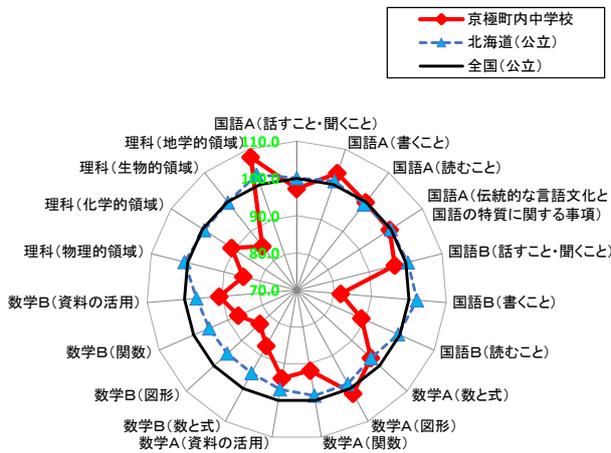
【京極町の学力向上策】

- ◎ 学習規律の定着に向けた小・中学校における共通・一貫した指導
- ◎ 個に応じた指導及び実物投影機等の活用による学習効果を高める指導の工夫
- ◎ 小・中学校の9年間を見据えた学力向上に係る合同研修会及び乗り入れ授業の実施
- ◎ 家庭学習の習慣化に向けた指導の充実、家庭学習の手引「きょうごくのこども」による家庭への啓発

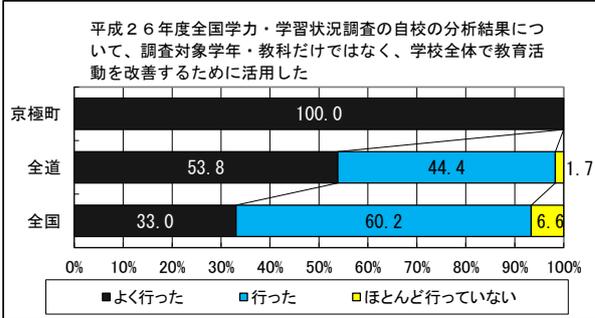
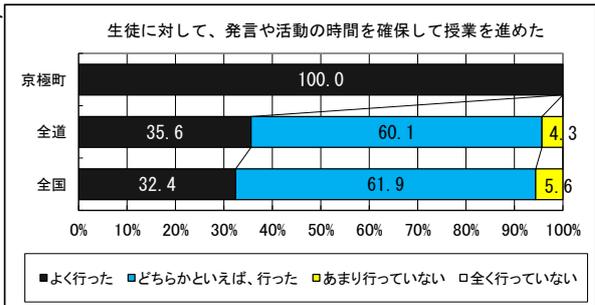
■京極町内中学校の状況及び学力向上策(学校数:1、生徒数:30名)

【教科全体の状況】

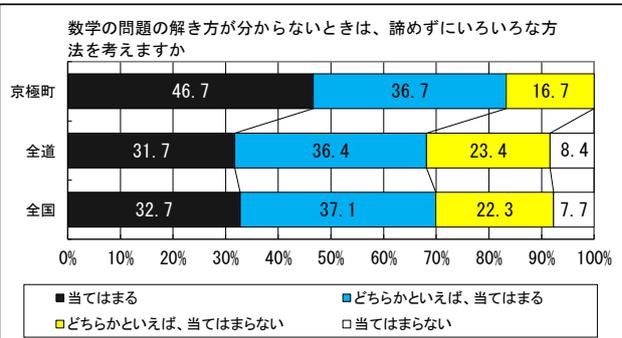
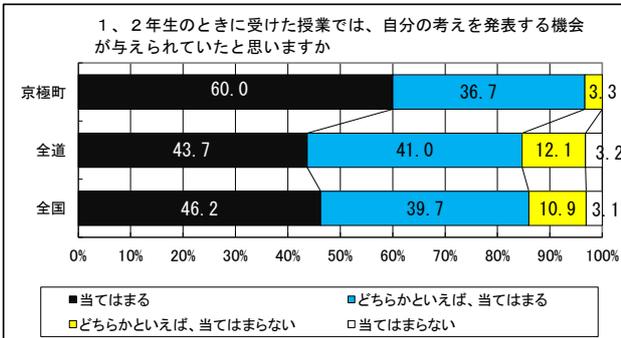
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【学校質問紙調査】



【生徒質問紙調査】



【分析】

教科	○ 国語Aでは「書くこと」、数学Aでは「図形」、理科では「地学的領域」で、全国及び全道を上回っている。	○ 平成26年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに、それらを活用して課題を解決する力を高める指導を行ったことにより、国語Aの「書くこと」、数学Aの「図形」、理科の「地学的領域」で、全国及び全道を上回ったと考えられる。
生徒質問紙	○ 授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えると回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回っている。	○ 生徒の発言や活動の時間を確保したり、自分の考えを発表する機会を与えたりするなどの授業改善を図ったことにより、数学の問題の解き方を諦めずに考えるなど、生徒の学習意欲の向上につながったと考えられる。
学校質問紙	○ 生徒に対し、発言や活動の時間を確保して授業を進めたと回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 平成26年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用したと回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。	

【京極町の学力向上策】

- ◎ 学習規律の定着に向けた小・中学校における共通・一貫した指導
- ◎ 個に応じた指導及び実物投影機等の活用による学習効果を高める指導の工夫
- ◎ 小・中学校の9年間を見据えた学力向上に係る合同研修会及び乗り入れ授業の実施
- ◎ 家庭学習の習慣化に向けた指導の充実、家庭学習の手引「きょうごくのこども」による家庭への啓発